

特別な教育的ニーズのある子どもへの指導・援助のポイント

- 特別支援教育を充実させる学級集団づくり -

「子どもの困り感」に寄り添っていますか？

すべての子どもの思いを満ちし、対象となる子どもを包含した集団づくりを行っていますか？



教師の困り感

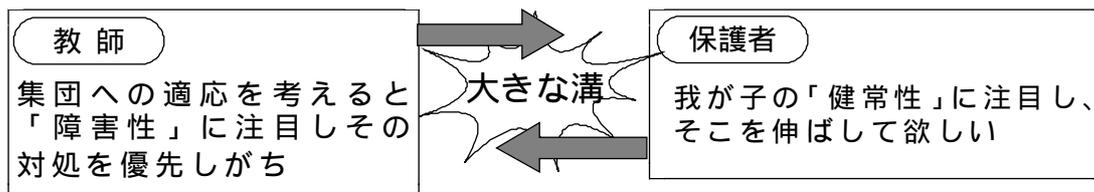
「その子に関わっている間、他の子どもへの指導がおろそかになる」
「友だちとのトラブルが多く、他の子どもが不満を抱えた」
「問題行動を他の子どもが模倣するなど、学級の雰囲気が悪くなった」
「障害に起因する行動なのか、わがままなのかわからない」
「他の子どもの保護者から心配やクレームがきた」
「保護者への相談の進め方がわからない」

「本人が弱いから、努力がたりないから」、保護者が「甘やかしているから」という教師の経験則に基づく理解にとどまっていますか。

「教師の困り感」より、**子どもの立場から見た「子どもの困り感」を理解し受け止め、汲み取っていくプロセスが必要**です。

ポイント1 子どもの困り感、周囲の子どもの困り感（受け止め感）保護者の困り感をアセスメント（分析・把握）します

発達障害の正しい知識の共有（職員会議、事例研究会等）
子どもが「どこで」「何を」困っているか（場面別に具体的行動を整理）
対象となる子どもと周囲の子どもとの関係で、双方が、「どんなこと」で困っているか
何が、誰が支えになっているのか（なっていないのか）
うまく適応している場面はないか（どのような工夫の結果か）
対象となる子どもの保護者が子どもの特性を受け入れているか
どの部分に気づいておらず、どの部分は認めているか（保護者の抱える葛藤や問題をさぐる）



教室の環境や学級風土は対象となる子どもにとって「困り感」を作りだしていないか
(環境要因の把握、二次的な問題をつくらないこと = 自己肯定感を低下させない)

ポイント2 対象となる子どもへの対応の工夫で効果をあげ、その様子を周囲の子どもが見て学ぶ機会をたくさん与えます

教室における効果的な対応例

活動時間や集中時間に配慮する
ことばによる指示はシンプルに
支援目標、支援のポイントを1つないし2つに精選する
目に見える援助（具体物、視覚的ヒント）を展開する
条件つき、段階的に肯定していく（部分的にほめる）
一貫性のある対応をする（対象となる子とのつき合い方や指示の仕方を決めておく）
危険なこと、迷惑な行動には、叱らないがゆずらない（感情的に叱るのではなく、だめなことをきっぱりと聞き入れない）
衝動的な行動に巻き込まれず、冷静に対応する（ときにはすぐに対応せず見守る）
対象となる子どもと話し合っ、約束事、ルールをつくる（契約書のように明文化）
ほめる、注意するはその場で行う（後から告げてもわからない）
感情的にヒートアップしたら、周囲が冷静に向かうように対応する
強制は逆効果である

教室環境や授業中の効果的な支援例

- | | |
|-----------------|---|
| 座席位置 | 刺激し合う子、トラブルの対象となる子どもと離す席、窓側の席、協力してくれる子の隣、少し動いても周囲に迷惑が少ない最後尾席、最前列、前列の子どもの活動をモデルとできる中央2列目、 |
| 板書 | 予定や活動内容を書く、視覚的にとらえやすいものを貼る、絵、イラストふりがな |
| 掲示物 | 刺激にならないように整理して貼る、最小限にする、黒板周囲に貼らない学級のルールを貼る、自信をもてるような作品掲示 |
| 課題の与え方 | 量の調節、自己決定させる、ゴールを明確にする、援助つきから一人でやれるまでを段階的に設定、達成感、成功体験が味わえる課題と積み重ね、少しのことで賞賛、評価、ごほうび |
| 学級のルール
特別ルール | 学級の基本的なきまりの明文化、対象となる子どものためのきまりを他の子どもの了解のもとにつくる、個別の声かけのタイミングをきめておく、賞賛や注意のカードをつくり提示する、うまくやれたときの声かけ、過剰な声かけはしない |
| 役割をつくる | 配布係、教師の手伝い係など役割を与える |
| 柔軟な
一斉指導 | 短時間の活動を組み合わせる、あらかじめ個別対応の時間を設け展開、授業の内容を始めに説明しておく
個別対応しているとき、他の子どもが活動できるパターンをつくる |

ポイント3 すべての児童生徒に優しい環境づくりを！

みんなが協力し合うための基本的なルールづくり、対象となる子どものためのルールづくり
すべての子どもが対象となる子どもとかかわる活動の設定（共同活動体験）
子どもどうしのつき合い方や相手への理解の確立（子ども自身の認識と関係づくり）

学級集団の育成には学年初めの4、5月が重要です。チーム支援の体制が必要だと想定される学級には、**初めからチーム体制で支援が適用されることが原則**です。体制を組んでみて、担任、教師一人でやっていけると判断したら、徐々にチーム体制を小さくしていきます。

